

令和7年度 第3回みなみ協議会議録

【日 時】令和8年3月9日（月）15：00～16：40

【場 所】本校2階会議室

【出席者】神奈川県立保健福祉大学副学長 金井 信高 様

横浜fカレッジ専門学校教務部長 小松 加代子 様

アンガージュマン・よこすか理事長 島田 徳隆 様

横須賀市立久里浜中学校長 新田 将之 様

校長 片岡 浩介 副校長 金井 一夫

教務G 大石 昌宏 進路G 二瓶 次夫 総務G 小川 浩二 広報連携G 林 睦

生活指導G 長島 円 生徒活動G 山崎 泰 生徒相談G 小松原 肇 [13名]

1. 挨拶等（省略）

2. 各グループより中間報告

<教務>

- 職員の異動が多い学校だが、例年どおり業務を遂行。
- マニュアルの活用でヒューマンエラー減少に努めた。
- 授業評価は全教科で平均3～4。全体的に良い評価と言える。
- 生徒の実態に合わせたカリキュラム作りを継続。

<進路>

- 6期生の状況
- 福祉：進学 2/3、就職 1/3
- 普通：進学・就職がほぼ半々（就職がやや多い）
- 神奈川大学志望者なし → 進学先の目的が明確だったため。
- 就職未定者は活動継続中。3月には数字変動の見込み。
- 8期生はワンウィークトライアルの学習評価で 自主的に学習に取り組もうとする回答が多く、学力が突出した生徒はいないが、伸び代を感じる学年。学校の教育方針を見定めるうえで鍵となる学年。
- 卒業生はキャリアプログラムを3年間通して実施した初めての生徒。企業交流も多く実施。
- 今後も生徒の視野が広がるような進路活動を行っていきたい。

<広報連携>

- 第3回学校説明会は個別相談中心。多くの方が来校。→ 今後も同方式の継続を希望。
- 説明会での OSS 生徒による案内の活躍が目立った。
- HP の情報整理と新規発信を進行。
- 生徒・保護者・教員による PTA 環境整備時は、昼食に豚汁提供し、生徒にも好評だった。

<総務>

- クラウド容量制限への対応を実施。
- 欠席連絡が "電話→オンライン→すぐーる" と短期間で更新され、その変更に対応。

- 行政と学校の橋渡し役としての対応を継続。

<生活指導>

- 生徒と話す機会を増やし、「指導」より「支援」を重視。
- 加配により巡回や廊下当番などに人員配置ができ、生徒の見守り体制が安定。
- 職員異動が多く、指導マインドが定着しにくいのが課題。
- 今年度の指導件数は増加。

<生徒活動>

- 文化祭は無事実施。生徒主体ながら教員サポートは必須。
- スポーツ大会は定着傾向。
- 部活動は部員の定着が弱い：少人数のため、試合に出られず辞めるケースも。一方で他校と合同チームの例もある。
- 保健委員・図書委員は独自に活動しているが、その他の委員会活動は文化祭中心。

<生徒相談>

- 今年度新設グループ。
- SC・SSW と連携し、生徒の学校生活を継続的に支援。
- 週1回コア会議を実施（約20名のケース共有）。
- SC利用80名、SSW利用147名（飽和状態）。保護者利用43名。
- 適切な外部機関につなぎたいが、人員不足が課題。

<副校長>

- 「授業評価」と「魅力・特色ある県立高校づくりアンケート」から学校の現状と課題を分析。

3. 質疑応答・意見

島田様

- 教員の生徒への関わりが伝わり良かった。
- 県教委による「魅力・特色ある県立高校づくりアンケート」の質問項目が学校の実態と合わない点を指摘。生徒に部活動や地域貢献をする余裕がない現状を県教委にも理解してほしい。
- SSW増員など、職員の支援配置を求めたい。
- 異動の多さは学校の特色維持に影響。
- 進路指導の努力にも感謝。

新田様

- 熱心な指導がなければ生徒は学校に来られない。中学校教員も南高校に感謝。
- 異動が早い理由（疲弊？立地？負担？）を質問。
 - 校長回答→8年で積極異動対象になることも影響しているか。
- 人員増員を希望。SC、SSWは可能なら常駐が望ましい。
- 教員のモチベーション維持が課題。
- 私立高校進学者の増加で公立はより大変になる。
- 非認知能力向上を含む教育課程の見直しが必要。

小松様

- 生徒の心理的支援ニーズは潜在的に多い。
- 地域の外部委託も活用して、生徒の達成感を生む取り組みの模索を提案。

- 部活動が定着しない問題 に対して、 週 1 サークルなど柔軟な形を提案。
- 生徒情報の AI 分析活用を提案。
- 生徒が相談を言い出しやすいツールの必要性を指摘。

【各部会議録】

評価部会（新田様・小松様・二瓶・山崎）

<魅力・特色ある県立高校づくりアンケートの結果をふまえて>

- 1・2年生が学校の魅力をどう感じているかアンケートをとってみてはどうか。
- アンケートのとり方に工夫ができないか、生徒の心情が読み取れるようなアンケートの設問が必要ではないか。
- 在籍中に資格が取れるような工夫ができないか。

<学習の進め方等について>

- 学習の進め方に理解のある専門家の配置はできないか。
- 学習到達度が不十分な状況の生徒がいるので、学習の遅れを取り戻すために放課後に補習などはできないか。

<学校運営に関して>

- 教員の疲弊の軽減のために対応が必要とされる。
- 人的資源を増やしても解決する問題ではない。

<学び直しや学習について>

- 横須賀南高校で学びたいという気持ちをもつ生徒に対して、何を学ばせるのか、どのような力を身につけさせるのが重要である。
- 高校に入学すれば何とかなるといふ保護者の意識を無くしていく必要がある。

クリエイティブ部会（島田様・大石・小松原）

<生徒の状況について>

- 生徒指導を通してでしか、教員と関われない生徒、学べない生徒がいる。
- 今年の卒業式は 141 名全員が卒業することができた。
- 生徒の状況が多様化しており、学校が抱える問題も多様化している。
- 保護者との信頼関係の構築が難しい。
- 近年の生徒数減少により、様々なところで歪みがきている。
- 中学校時代に欠席などで躓いている生徒について、高校入学後も厳しい状況になることが多々ある。

※福祉部会は欠席者が多く不開催とした。